

ほのぼの

第50号

平成30年

11月

発行

信行寺門信徒会

神戸市須磨区戎町1-2-3

TEL.078-732-5209



一度きりの尊い道

住職

近頃、老いとそれにとまなう病に関係する広告が多くなりました。私たちの身体的若さへの回帰を願う気持ちがそれだけ強いということでしょうか。では、若さだけに人生の価値があるのでしょうか。

お釈迦様は生老病死を苦の元であると仰せられました。私たちはこれを避けようとしませんが逃れられません。生まれると同時にこれと付き合うのです。この世において、老・病・死が無ければどんなに幸せかと思うこともあります。愛しい人との別離の悲しみがなくなるからです。しかし、若いままなら、邪見と驕慢を招き、健康だけなら自惚れの日々になりかねません。若さと健康は、身体的弱者を軽視しかねません。わがままのし放題が続き、他人の傷みを氣遣う情もわかない。自分の生活行動を顧みる

縁に遇っておりながら気づかず、人間であることを失した生活に堕ち込むような気がします。老病死は人を善に導いています。

老いを実感するようになると、若い時はよかったと、ついつい過去をなつかしむ。思っても思わなくとも、過去の自分に再び戻ることはできないのに、若さだけが人生の華であるように錯覚してしまいます。ちょうど月を見るのに満月だけを望むようなものでしょうか。月は地球を周っています。満月もやがて、半月になり三日月になり、さらには月光を放たない新月になってしまう。しかし地球から見る姿に変化があっても、月の実態は変わりなく、太陽の光を受けて常に丸く月光を放っている。また、昔から「月にむら雲、花に風」と言われますように、せっかくの満月を雲が隠すこともあります。地球から見る月の姿は変わります。人生も同じようなものではないでしょうか。幼少期から青春にもえる青年期へ、さらに自他ともに「役に立っている」と思っている働き盛りの壮年期へ、さらに力に衰えを感じる老年期へとむかう。それぞれに違った姿があります。ここで見落としてはならないのは、今の自分は生涯

でたった一度の自分を生きている事実です。過ぎ去った時は戻らないのですから。ないものねだりをする必要はありません。

どんな年代にあっても、私たちはなんらかの「自信」を持って生きています。「プライド」といってもよいでしょう。他の人と比べて自分の方が優れた能力を持っていると思えると自信が出ます。他人に褒められたりすると自信がきます。逆に、自分の存在が無視されると落ち込みます。また自分への評価が悪いと、自分の全人格が否定されたような気がして心が折れてしまいます。自分の健康に自信がなくなる時も同じです。私たちは「それができる」、「自分は他の人の役に立っている」と思えなくなると、「もう私は要らなくなった人間だ」と勝手に判断して、明日への望みを失いがちです。それは間違いです。光に遇わないと影に気づけません。影は私から離れることはありません。

「一度きりの 尊い道を 今 生きている」（東井義雄）という言葉があります。尊い道とは、私から離れることのない阿弥陀様と歩む道です。

夏期法座



今年の夏は、毎日本当に暑い日々が長く続きました。そんな中、今年度も八月十八日（土）十一時より、信行寺にて夏期法座が行われました。今回で三十六回目をむかえ、新しい参加者にも来ていただきました。

法題「弥陀によばれて なごむ世界へ」で、住職の法話が、午前午後に分けて行われました。また、副住職から、「新研修読本」を使った宗教についての話や浄土真宗の歴史や各派の違いについての話がありました。信行寺は、浄土真宗本願寺派であります。みなさんは、本願寺派以外にも浄土真宗にはいくつかの派があるか知っていますか？なぜ西と東に分かれているのかを知っていますか？今回の「日頃の疑問を考えよう」はこのことを取り上げています。ご覧ください。

来年の夏期法座もたくさんのご参加をよろしくお願ひします。

日日是好日

副住職

先月、女優の樹木希林さんが亡くなりましたが、大変味のある演技をされる方でした。その希林さんの最後の映画となった「日日是好日」を観に行きました。茶道を通して見えてくる世界観、そしてそれを学ぶ人の移りゆく心が表現されていました。茶道を知らない私にも深く共感させられる内容でした。

大学生で、お茶を習いだした主人公の典子は先生から習う茶道の所作の意味を聞いたり、順番など頭で覚えようとしたり必死でした。しかし、先生は「なぜそうするのか理由は知らないわ、まずは形を覚えるの。そうしたら後から心が入るものなの」「頭で考えないで体が覚えるまで稽古を繰り返すことです。習うより慣れるというでしょ」と言うのでした。

世の中には、「すぐわかるもの」と、「すぐにはわからないもの」の二種類がある。すぐわかるものは、一度通り過ぎればそれでいい。しかし、すぐにわからないものは、何度か行ったり来たりするうちに、後になって少しずつじわじわとわかりだし、「別の

もの」に変わっていく。そして、わかるたびに、自分が見ていたのは、全体の中のほんの断片にすぎなかったことに気づく。茶道とはそういうものだ。茶室で典子がいつも目にする「日々是好日」という書の意味も、すぐにはわからないもののひとつでした。

現代人の私たちは直ぐに答えをもとめ、頭を使ってその答えを得ることがゴールなのだと考えがちです。茶道をはじめとして華道や書道、武道、そして仏道も「すぐにはわからないもの」です。わからないことをわからないままに、答えを焦らず、淡々と繰り返し、とで体に染み渡るように体感していくこと。それは一生涯つづく道そのものだと思います。

典子は子供のとき親に連れられてフエリーニ監督の「道」という映画を観ました。その時はさっぱり意味がわかりませんでした。が、大学生になって再び同じ映画を見て衝撃を受けるくらい感動します。それからまた十年後に見た時には、以前は見えていなかったシーンや聞こえてなかったセリフがいっぱいあったことに気づくのです。私も同じ本を何度も読み返すたびに、以前は読めていなかった内容にはっとさせられることがあります。人生の年輪を重ねるということは

そういう見えてなかった世界に出逢いつづけることではないでしょうか。

茶室の模様替えは季節とともにされますが、映画の中の茶室から見える中庭は自然の息吹を感じさせます。梅雨時のお稽古の時に突然、すごい雨が降り出しました。典子はその雨の音を聞きながら目をつぶります。床の間には「聴雨」という書がかかっています。「ああ、生きてるってこういうことだったんだ」典子がかを体感した瞬間でした。

茶室という限られた空間の中で実は大自然とひとつになるような精神世界をもっているのが茶道なのかもしれません。

映画の最後の場面、お正月の初釜で八十八歳になった先生、樹木希林さんが言った言葉が耳に残っています。

「毎年毎年、同じことの繰り返しなんですけど、でも、最近思うんですよ。こうして毎年、同じことができることが幸せなんだって」

撮影の時には癌を患い死期が迫っていた希林さんだったことを思うと、なおさら言葉に重みを感じました。

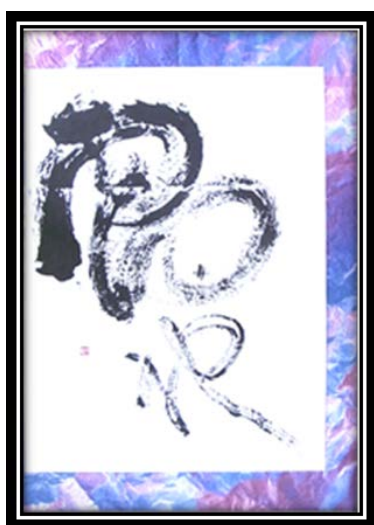
アート書道

空 早苗

「アート書道」に出会ったのは神戸新聞に中西賀子先生の作品が連載されているのを見て興味があり、先生の教室に通い始めました。

『アート書道』とは古典書（倣書）を素材としたり、文字・非文字を素材として自らの書の世界を創作したりすること、音楽で言えば作曲すること。ならばどのような思考で制作するのかというと、【直感】と【直観】と教わりましたが、そうは言ってもなかなか難しいです。

自分の名前だけでも上手に書きたいと書道を習い始めましたが、なかなか上達出来ずにいました。その時出合ったのが「アート書道」です。形ある文字をどのように表現するのか、また他の人にどのように伝えたいのか解りません。でもこれから解らないまま続けていきたいと思っています。



風神雷神





法語カレンダー

今回は、本願寺出版社の法語カレンダー、十一月の言葉の説明をします。

聞もんというは

如来にょらいのちかいの御みなご

信しんずともうすなり

聞とは、如来の誓願を根源とした名号、つまり「南無阿弥陀仏」を信じることです。

これは、「尊号真像銘文」にある親鸞聖人の言葉です。

第十八願成就文には、「その名号を聞きて 信心歓喜せんこと、乃至一念せん」とあります。親鸞聖人はこれをうけて、「聞というは、衆生、仏願の生起本末を聞きて 疑心あることなし、これを聞といふなり。信心といふは、すなわち本願力回向の信心なり。」

り」(信巻)と仰せられています。

聞くということについて、昔から浄土真宗では、「聴聞」ということが大切であるとされてきました。

この「聴」と「聞」とはどちらも、「きく」ですが、少し意味が違います。例えば、お医者さんの聴診器は、患者さんの体内の音を外から「聴きにいく」ものです。反対に、向うから「きこえて来る」のを「聞く」と表します。

浄土真宗のみ教えは、「聴」がなければ始まりません。阿弥陀仏の本願の教えを、こちら側から「ききにいく」ということがなければ、教えの内容がわかりません。私たちは、自らが「ききにいく」ということを積み重ねた結果、何らかのものが聞こえてくるのです。しかし、阿弥陀仏の本願のはたらきが私に届いているということが、聞こえてみれば、私が聴いたからではなかった。最初から私に届いていたと知らされるのです。



日頃の疑問を考えよう

Q

法語カレンダーの表紙には、下記のよう
に〇〇寺〇〇派とたくさん書かれて
いますが、浄土真宗でも何か違いがある
のですか？

A

信行寺の本山は西本願寺で、本願寺派
です。その他にも大谷派や仏光寺派など
真宗十派と呼ばれる各派があるのです。
もちろん親鸞聖人の教えを継承するこ
とは同じですが、血縁ゆかりの派と高弟を中心と
する門徒集団の流れをくむ派から成立した歴史が
あるのです。

Q

西本願寺本願寺派は、どのような歴史から成立
したのですか？

A

親鸞聖人の曾孫にあたる覚如上人が本願寺三代目
を主張しました。しかし、門弟の系譜を継ぐ仏光寺
などの組織が力をもち、本願寺は、天台宗の末寺と
して存続していたに過ぎませんでした。八代目に蓮
如上人が登場すると急速に発展・拡大します。逆に
他の各派は、本願寺に属するようにもなり衰退して

真宗教団連合

西本願寺 東本願寺 専修寺 佛光寺 興正寺 錦織寺 毫根寺 誠照寺 専照寺 證誠寺

Q A

いきます。その後、十一代顕如上人の時代には、織
田信長との戦争が起こります。十年戦い続けました
が、天皇の助言をうけ武装解除し、石山本願寺（今
の大阪城）を明け渡しました。豊臣秀吉の時代にな
り、京都に土地を与えられ、本願寺を再興します。
そして、徳川家康の時代になると、本願寺の勢力を
半減させるため、顕如上人の長男である教如上人に、
本願寺が分立されることになります。こうして浄土
真宗は大きく西本願寺本願寺派と東本願寺大谷派
の二つの派に分かれたのです。

この二つの派に今でも違いはあるのですか？

政治的問題によって分裂が起きたのですから、
教義上においてほとんど違いはありません。しか
し、作法や仏具などの違いがあります。例をいくつ
か挙げてみましょう。焼香の回数が本願寺派は一回、
大谷派は二回。正信偈などのお経の節回しが違う。
下記の写真のように仏具の
形が違う。

本願寺の歴史を調べてみ
るのも面白いですね。



本願寺派



大谷派



信行寺行事予定とご案内



◇報恩講法要

十一月二十四日（土）法話 山本 摂観 先生

十一月二十五日（日）法話 住職

【今年は十一月につとめます。】

二日間とも午後二時より四時までです。

ご都合に合わせて、一日でもお参り下さい。

二十四日にはお斎の接待があります。

◇新春初法座

2019年 一月五日（土）

午後1時より

お正月をお寺で楽しくお迎えしましょう。

お勤め、法話の後、皆さんと楽しく語らいながら、御馳走（お世話の方々手作り料理をもち寄ってくださいます）をいただきます。

編集後記

秋の彼岸法要が九月二十二、三日と行われました。

一日目の法話は佐々木義英先生でした。歴史を交えたお話の中で、紫式部の『源氏物語【宇治十帖】』に登場する「横川の僧都」とは、七高層の一人で平安時代に生きておられた「源信和尚」がモデルであると初めて知り、驚きと共に少し身近に感じることができました。その源信和尚から後、法然、親鸞聖人と今日まで千年の間繋がってきたお念仏のすごさ、有難さを話されました。二日目の法話は信行寺の住職でした。お浄土や仏さまの心は目には見えないけれど形（＝声）として私たちに表してくださった、それがお念仏。お念仏申すことの大切さを説いてくださいました。

懐かしいお方、初めてお会いするお方も今共にお念仏を喜ぶ者同士として法話を聴聞し、お斎を頂き、楽しくお話できるのは、遠くからつながる御縁の不思議のおかげですね。

どなた様もお参り お待ちしています

多田 清子